

## 令和 6 年度国立大学図書館協会賞審査結果報告

1. 応募区分 図書館活動における功績
2. 対象者 東京大学附属図書館デジタルアーカイブ活用に関する勉強会（通称：裏源氏勉強会）
3. 件名 デジタル源氏物語：研究者との連携による「源氏物語」研究プラットフォームの構築
4. 結果 採択
5. 理由 <p>本件は、東京大学で所蔵する『源氏物語』（東大本）のデジタルアーカイブ化にあたり、単なる画像公開ではなく、『源氏物語』研究、ひいては国文学における画像の活用可能性やデジタルアーカイブが持つべき機能について研究者と共に検討すべく、2019年7月、職員6名と教員3名による勉強会を発足させたことに始まる。この勉強会では、研究者がどのような場面で画像を利用するのか、デジタルアーカイブに求める機能についてブレインストーミングを行った。その結果をもとに、本文中の求める箇所を素早く特定できる機能や関連資料にスムーズに遷移できる機能等をもつ『源氏物語』研究プラットフォームの構築を企画した。この研究プラットフォームは、『校異源氏物語』の国立国会図書館の公開画像をOCRにかけその校正を行った文章について、各ページ先頭部分と「東大本」及び与謝野晶子訳『源氏物語』（青空文庫で公開）と対応箇所のリンクを行った。その作業成果は、「デジタル源氏物語」として2019年11月から2020年9月にかけて全54帖を順次公開した。その後、2021年にAI画像検索機能を搭載するにあたり、事前レビューとヘルプページの制作に携わった。また、「絵入源氏物語」の挿絵比較ページ及びパタパタ顔比較ページを追加するとともにヘルプページや説明動画の作成により「デジタル源氏物語」の機能強化を図った。2021年以降、授業「デジタル・ヒューマニティーズ入門」で毎年1回分を担当することで、「デジタル源氏物語」への率直な意見を受けられる貴重な機会を得て、その結果を踏まえさらなる改善が期待できる。</p> <p>以上のように、研究者と図書館職員それぞれのスキルを融合させ、「デジタル源氏物語」の構築および改善に寄与している。このことは、国立大学図書館協会ビジョン2025 目標1-2) 図書館資料の整備と利用のための保存 及び 目標 3-1) 多様な人材との協働 の達成に貢献するものであり、「国立大学図書館協会賞選考基準」第4条第1項第2号に該当するものとして国立大学図書館協会賞に推薦する。</p>